

第6回「佐々川流域の石橋群」フォト・絵画コンテスト作品展 吉井会場、世知原会場で開催

第6回『佐々川流域の石橋群フォト・絵画コンテスト』の作品展を吉井会場（吉井地区公民館1Fロビー）、世知原会場（世知原公民館1F廊下）で実施しました。

吉井会場は、2月10日～20日、世知原会場は3月10日～14日で、来館者は一様に、その表現の高さに大きなため息を漏らされるなど、大変好評の内に企画を終了することができました。

次年度は、佐世保市の繁華街での展示も視野に検討を進めていきたいと思っております。



吉井会場での展示風景

H25年度石橋周辺整備事業終わる



荒れた休耕田（約500坪）を草払いから始めて7年、その間、曲川橋展望所は大学生や会員の作業そして市の補助を得ながら整備がすすめられてきました。おかげで、カメラを手にした方、スケッチをされる方などの姿も見かけるようになり、憩いの場になっています。

本年度は、つつじ、ツバキ、アジサイなど約30本を植樹、花壇やプランターには、パンジーやガザニア等を植え、本年度の整備事業を終了しました。

石橋のガイドで考えていること

- 3月9日（日）ふるさとの会の「石橋ガイド研修会」を実施しました。世知原や吉井の石橋をガイドしながら、「ガイドをするということはどういうことなんだろう」とよく考えてしまいます。そこで各地のガイドを訪ね、参考にしていることを書いてみましょう。大事にしている順に。
- ①ここにきて楽しかったという「思い出」をつくる…「また来たい！」
 - ②参加者の興味はそれぞれ違う…周辺の歴史背景や、動植物への関心。
 - ③石橋への知識…「石橋」の存在、なぜ架けられたのかの背景等が知れた。



大きく言うとこの3点かなと思います。①はやっぱりガイドの弁術かなと思います。参加者を引き込む楽しさの演出です。「あ、それ知っている」という参加者の知識を共有することでしょう。②はたとえば「石橋」を見に来たとしても、ここの強い関心は、石橋周辺で見かけた鳥や花といったものに傾きます。ガイドをするには、結構幅広い知識を必要とします。写真は川の渡り方を案内しているところですが、こうした案内も必要になります。③番目に本題を持ってきましたが、『架橋年代』や『橋長』などガイドのウンチクでしゃべっても案外退屈を与えてしまうことも多いものです。要は、「知っていることを教える」ではなく、参加者を主人公に、『また吉井に（石橋にではなくてもいい）来たい！』という思いをつくることだと思います。（末永）